

重点施策 14 文化財の保存及び積極的な活用

【施策方針】

国重要文化財に指定されている日土小学校の校舎見学会や梅之堂三尊仏の一般公開等、文化財の保存・活用に努めるとともに、唐獅子五ツ鹿共演大会等を通じ伝統的行事文化の継承を図り、旧白石和太郎洋館を中核とした保内町の古いまちなみの保存、紹介を行う。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

文化財の保存、継承

- ① 重要文化財日土小学校校舎見学会
- ② 梅之堂三尊仏の一般公開
- ③ 旧白石和太郎洋館管理、一般公開
- ④ 文化財保護審議会の開催

(2) 主な施策・事業の実施状況

① 重要文化財日土小学校校舎見学会

平成 24 年、戦後木造建築として初めて国重要文化財に指定された日土小学校は、全国から多くの見学依頼が寄せられているが、現役の小学校であることから、児童への影響を考え原則非公開とし、長期休暇の間に年 3 回見学会を開催した。平成 29 年度は 473 名の見学者があった。

② 梅之堂三尊仏の一般公開

国指定重要文化財である梅之堂三尊仏の一般公開は、5 月から 12 月の第 2 日曜日及び 10 月 19 日の合計 8 回行った。(29 年度は奈良国立博物館の特別展へ 7 月から 8 月の間貸し出しされたため、その間は公開休止とした)

③ 旧白石和太郎洋館管理、一般公開

市指定文化財旧白石和太郎洋館については、毎月第 2・第 4 日曜日に一般公開し、随時イベントや会議用に貸し出しを行った。旧保内町の繁栄、栄華の跡を今日にまで遺すものとして、公開は無料とした。

洋館の管理は、一般から募集した管理者に委託している。(旧白石和太郎洋館管理委託料 240 千円) また、まちなみ見学用駐車場及び公衆トイレ管理業務についても、同じくこの洋館の管理者に委託した。見学用駐車場と公衆トイレは、旧白石和太郎洋館を中核とした旧保内町のまちなみの見学者・来訪者専用につ造ったものである。(まちなみ見学用駐車場及び公衆便所管理業務委託料 240 千円)

④ 文化財保護審議会の開催

有識者による文化財保護審議委員を各分野から選任し、文化財の保護、新しい市文化財の指定及び指定の解除等について議論をし、文化行政に反映させる意見や助言をいただいた。審議会の答申を受け、4 月に「菊池清治邸」「圓照寺伝来の八代焼」の 2 件が新たに市の有形文化財に指定された。

また、10 月には「八幡浜街道笠置峠越」が国の史跡に市内で初めて指定された。

【事務事業点検評価委員意見】

- 文化財の保存や公開は、地域の先人から今に伝えるものを知ることができ、市民にとって重要な事業だと思う。その事業の中で、日土小学校には多くの来訪者があり、建築家が考えた「子どもが快適に暮らせる、人に優しい空間とは何か」ということを見て感じることであれば、素晴らしいと思う。実際に、日頃の学校生活の中で児童や教職員が感じとれた体験や特徴を生かした教育活動を、発信してほしいと思う。
- 旧白石和太郎洋館は、建築当時の保内地域の街並みをはじめとする繁栄ぶりが表れている。そのため、当時の近隣住民の生活の様子がよく分かるリーフレットやマップを作り、「若い勤労女性が多かったころの本町街並みガイド」や、洋館を生かした街づくり計画を作成し、「旧保内街並みエリア」に存立する文化財や当時からの建造物と、現在の生活地域が共存した住み心地のよいエリアづくりにしてほしいと思う。
- 文化財は、「守ること」と「生活のなかで生かすこと」が共存することができれば、市民の意識や関心が高まり、居住環境、交通面での安全な環境、駐車場等も整備されるなど、地元のメリットもあり、地域おこしがさらに盛り上がっていくと思う。
菊池清治邸は、旧白石和太郎洋館と同様、建物保存だけでなく、浜之町、船場通り、本町、大法寺等を含む「伊予の大阪・港町」というエリアづくりを考えてほしい。
- 笠置峠（八幡浜港を結ぶ遍路道）と金山出石寺（別格霊場札所）は、「四国遍路」という歴史遺産との関連のなかで、県歴史文化博物館や周辺市町と連携して、八幡浜市の歴史・文化の研究のために寄与してほしい。

【自己評価】

- 市内には各所に貴重な建造物が残り、市の発展の歴史を伝えている。
個々の建物を保存するだけでなく、地域の中で面的な活用をしていくことで、魅力の発信や掘り起しをしていきたい。
- 平成 29 年 10 月に国史跡の指定を受けた八幡浜街道笠置峠越は、四国遍路に関わる歴史遺産であり、今後八幡浜と他地域を結ぶ重要な役割を担うものである。専門機関や周辺市町、地元とも連携し、調査研究及び保存活用に努めていきたい。